【令和４年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立志賀小学校

〇調査目的	◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【　全国学力・学習状況調査結果　】

《国語》

国語科においては、全体的な正答率において高い数値を示しました。また、全国や県、市との「無答率」を比較すると、本校は大変「無答率が低い」ということが示されました。この無答率の低さが全体的な「正答率の高さ」に結びついていると考えられます。

「読むこと」に関する長文読解の問題において、正答率が高い傾向が見られました。選択式とはいえ、長い文章や資料を読み取らないと解答にたどり着けない問題であり、最後までしっかりと読めたことが考えられます。

「書くこと」に関する記述式の問題において、全国や県、市と比較したところ、正答率が高い傾向が見られました。他の問題と比較するとやや苦手意識が見られますが、文字数のルールを守り、書ききれたことが成果と考えられます。

観点別では「我が国の言語文化に関する事項」において弱さを示しました。具体的には、文章記述における工夫点について正しい工夫を選択するという問題の正答率が低く、無答率が高かったです。これは問題の難しさよりも、国語科の最終問題に位置づけされていたことが要因と考えられます。決められた時間内に問題を解ききること、つまり時間配分に弱みを示したといえます。日々の学習において時間内に解ききることや、文章をざっくりと読み、必要な情報を得るといった力の定着を図る必要があると考えられます。

《算数》

算数科においては、全般的に無回答率が低く、よく考えて解こうとする様子がうかがえます。また、すべての観点において全国平均よりも高い正答率を示しました。特に、「図形」の問題において、特に短答式で回答する問題でかなり高い正答率を示しました。具体的には長方形を作図するためのプログラムについて正しい数値を回答するという問題において約９０％の正答率を示しました。これは、日々の学習で、プログラミングを活用した学習を取り入れるとともに、児童が受け身的な学習にならないように自分で考えたり、友だちと自分の考えを交流したりする取り組みを繰り返してきた成果だと考えられます。

しかし、「割合」の問題において、低い正答率を示しました。全国や県、市と比較したところ正答率は上回っていたものの、本校の弱みと考えられます。具体的には、「果汁２０％の飲み物５００ｍＬを二人で均等に分けた時の１人分の果汁の割合はどうなるか」という選択問題において、「１人分は２５０mL と二分の一になるため、果汁の割合も二分の一（１０％）になる」という不正解を選択する児童が多かったです。このことから、割合（％）の意味理解（イメージする力）に弱みがあると考えられます。

《理科》

理科においてはすべての問題において全国よりも高い正答率を示しました。また、無答率についてもかなり低い数値を示しました。特に「生命を柱とする領域」において、非常に高い正答率を示しました。具体的には「昆虫の体のつくり」に関する選択問題、「テントウムシの育ち方の観察」に関する選択問題において、８０％近い児童が正答しています。これは、生き物に対する興味関心が高いこ

と、学校が生き物を探したり、捕まえたりしやすい環境であることが関係していると考えられます。
　選択式問題や短答式の問題では、高い正答率を示したものの、記述式の問題において弱みがあると考えられます。全国や県と比較すると低くはない正答率ですが、今後の課題として力を伸ばしていけるような学習を進めてまいります。

【　今後の取り組み　】
　「全体の見通しを持ち、課題に取り組む」ことに弱みがあることから、課題全体の量を把握し、課題にかかりそうな時間を見積もったり、分かる問題から先に解いたりする「見通しを持つ」ことを授業でも取り入れていきます。具体的には、単元の始めに、全体の見通しを児童と共有します。また、１時間ごとに「本時のめあて」を提示します。「この時間には何が分かれば良いのか」を児童に示すことで、その時間の見通しを持つことをねらいとします。
　また、長文問題や、多くの資料を用いた問題から、効率的に情報を読み取り、必要な情報を選ぶ力を伸ばすため、どの教科においても情報活用能力の育成をめざした授業づくりをしていきます。
　時間を意識して取り組む力も重要と感じましたので、通常の単元テスト等においても取り組む時間を明確に示し、決められた時間内で課題をやりきる力を伸ばしていきます。

【　児童質問紙より　】
　学力調査と同日に行われた児童質問紙の結果を分析し、本校児童と全国との差が顕著である点について以下に示します。

《規範意識》
学校の決まりを守ったり、いじめを絶対に許さないと考えたりする児童の割合が、大変高い値を示していました。３校訓を徹底し、ルールを守ることで自分たちの生活がよりよくなると感じられた児童が多いと考えられます。今後も、3 校訓の徹底を継続し、高い規範意識を育てていきます。

《ICT を活用した学習状況》
学校での学習において、ICT 機器を活用することができると答えた児童の割合が高い値を示していました。しかし、「友達との意見交流に活用できているか」という問いに対し、「あまり活用できていない」と回答した児童が多かったです。これは、昨年度から導入された ICT 端末を調べ学習等においては使用する頻度は高いが、「意見交流」に活用するまでには至らなかったということが窺えます。ＩＣＴを有効に活用し、自らの学びを深めるために、より良い活用方法を探っていきます。

《読書時間》
休み時間や放課後、学校が休みの日などの読書時間は、とても短いことが分かりました。学校の図書室や公共の図書館等を利用する割合もあまり高くない値を示しました。学校では、一斉に図書室で本を借りるなど、本に触れる経験を積み重ねていくとともに、体力向上やコミュニケーション能力の向上を図るため、体を動かして友だちと元気に遊ぶことも継続し、遊びと読書の両立を目指していきたいと考えます。ご家庭でも、本を読む時間をとっていただくなどし、読書の楽しさに触れさせていただきますようお願いします。